

「JENESYS2025」日中教育関係者 座談会 (中国教育関係者代表団フォローアップ) の記録

1. プログラム概要

【目的】本事業は、過去の「JENESYS」事業で訪日した中国教育関係者代表団参加者と、2025 年 9 月 21 日（日）～9 月 27 日（土）に中国日本友好協会の招待により訪中した日本青年教育関係者訪中団参加者が座談会を行い、日中の教育分野について意見交換し、相互理解をより一層深めることを目的として実施しました。

【参加者】中国教育関係者代表団参加者 28 名

（日本側：日本青年教育関係者訪中団参加者 51 名 計 79 名）

【訪問地】北京市

【日程】

■ 2025 年 9 月 23 日（火）

概要
【座談会】 テーマ別グループ討議 交流テーマ 1：ICT の活用方法 交流テーマ 2：教員の働き方（環境、待遇、研修、褒章等） 交流テーマ 3：指導方法（一斉授業 vs. 個別指導、探究型の指導方法、双方向型の教育、アクティブ・ラーニング等） 交流テーマ 4：生徒・学生のメンタルヘルス 交流テーマ 5：教科担任制 vs 全科担任制 交流テーマ 6：英語教育（日中の比較） 交流テーマ 7：キャリア教育（幼児教育～大学まで学校間連携について） 討議内容発表 講評 【交流夕食会】

2. 記録写真



グループ討議



グループ討議



参加者による感想発表



訪中団団長による講評

3. 報道記事（抜粋）

なし

4. 参加者の感想（抜粋）

◆今回の座談会を通じて、日本の教育者の勤務環境や福利厚生、日本の学校での教育実践についてより深く理解することができました。両国の教育には多くの共通点がある一方で、共通の課題も存在します。また、それぞれの教育には独自の強みがあり、互いに学び合う余地があります。

今後は、両国がそれぞれの長所を活かしつつ協力し、相違点を尊重しながら教育の質向上に努め、学生と教師の成長に貢献したいと思います。

◆今回の交流では、日本の教育現場の状況を理解し、中日双方の教育の現状を比較しながら、共通の課題について深く議論しました。特に、新技術への適応や生徒の自主学習能力の育成に関して、それぞれ異なるアプローチを取っていることが分かり、互いにとても刺激となりました。

◆今回の交流は、中日教育者間の理解を深めるとともに、異なる教育モデルの価値観や双方の強み、参考にするべき点を再認識する機会となりました。今後は、長期的な交流体制を構築し、対面での深い議論を通じて、交流成果を実践に反映させることで、基礎教育の質向上を目指し、子どもたちにより良い学びの環境を提供していきます。

◆交流後、私は学びへの感謝と教育への責任感で胸がいっぱいになりました。一人ひとりの子どもの心に寄り添うことが、未来社会の最も堅固な基盤になると実感しました。

実施団体：（公財）日中友好会館